

まるいん通信



公益財団法人 屋久島環境文化財団 TEL 0997-42-2911 FAX 0997-49-1018

~~~~ 屋久島研究講座開催のおしらせ ~~~~

第1回屋久島研究講座

300年の眠りを越えて

「シドッチ神父、その生涯と屋久島」

講師 古居 智子氏(作家)

11/24(金) 19:00~20:30

定員 200名【ガイドの方で受講証明書の必要な方のみ予約が必要】

場所 屋久島環境文化村センター(宮之浦)

【同時開催】

展示会

よみがえる 江戸の宣教師(ばてれん)

「シドッチ神父の遺骨の発見と復顔」

屋久島巡回展(11/1~12/10)

第2回屋久島研究講座

この回は必ず予約が必要です

「南九州縄文文化と横峯遺跡・竪穴住居」

講師 新東 晃一氏

(南九州縄文研究会代表)

11/26(日) 14:00~16:00

定員 50名【予約制 先着順】

予約開始 11月15日(水) 9:00~

場所 屋久島環境文化研修センター(安房)

横峯遺跡(春牧)

※座学のあと現場説明会を行います。

※駐車場は自然館の駐車場をご利用下さい。

※現場への移動は財団バスを利用します。

予約先 屋久島環境文化村センター

電話 0997-42-2900 (受付は電話のみ)

平成29年度ふるさとセミナー

「冒険しよう」

段ボールハウスでキャンプ、アウトドアアクッキング、竹の遊具づくりなどで楽しもう。

日時: 12月2日~3日(土~日) 1泊2日

集合・解散: 研修センター(安房)

対象: 町内小学4年生~中学3年生

定員: 20名

※応募者多数の場合は抽選となります。

参加費: 4,000円(宿泊・食費・保険料等)

締切: 11月16日(木)

問合せ: 研修センター TEL 46-2900

担当: 小脇

平成29年度人材育成事業

「自然体験指導者スキルアップセミナー」

「伝えるから伝わる」と「企画・広報・プログラム運営」をテーマに学びあい、鍛え、深める4日間。冬場のスキルアップとして、いかがでしょうか。

日時: 12月18日~21日(月~木) 3泊4日

会場: 研修センター(安房)

対象: 18歳以上

定員: 先着15名

参加費: 12,000円(宿泊・食費・保険料等)

締切: 12月11日(月)

問合せ: 研修センター TEL 46-2900

担当: 福元

※修了者は「NEAL インストラクター」概論の修了書及び「普通救命講習2」の認定書を取得することができます

休館日

村センター 11/21(火) 12/19(火) 12/28(木) ~1/1(日)

研修センター 11/13(月) 27(月) 12/4(月) 11(月)



7月号のまるりん通信で今注目の外来種「ヒアリ」について紹介しました。屋久島にも港があるから注意が必要です・・・と。なんと屋久島にも注目の外来種が居着いていることが最近判明してしまいました。

9月にXが見つかったので、調査してみましようということで集まった外来種対策チーム。「本当に見つかるかな？」と半信半疑でしたが、調査開始後すぐにXは発見されたのでした。

その正体は「ゴケグモ類」。9月に見つかったのはセアカゴケグモ1個体でしたが、調査では複数のハイイロゴケグモとその卵のう（たまごの塊）が見つかりました。このゴケグモたちはヒアリののようにメディアでよくとりあげられていた外来種です。なぜかというところ「毒グモ」だから。牙に神経毒をもち、これに咬まれるとズキズキした痛み、熱感、痒み、リンパ節の腫張などが生じます。通常は数時間から数日で症状は軽減しますが、時に脱力、頭痛、筋肉痛などの全身症状が数週間継続することがあるようです。ゴケグモ類の特徴は、「丸く大きな腹部（足を除くと~1cm程度）」「腹部腹面（＝足の付け根が見える面）に砂時計型の赤い斑紋」です。背面の模様は個体や成長度合によって変異があるので見分けるのは難しいかもしれませんが、この斑紋があれば確実です。咬傷被害が発生しているのはメスで、オスは体サイズがメスの半分ほど（~5mm）しかありません。おとなしいクモなので飛びかかってくることはないようですが、うっかり巣を触って咬まれてしまう可能性もありますのでご注意ください。



発見されたハイイロゴケグモ（♀）



腹面の模様

ヒアリにもいえる事ですが、知らないとどうしてもむやみやたらと駆除してしまいがち。そのなかには貴重な在来種もいるかもしれません。自分の身、そして貴重な生き物を守るためにも特徴をしっかり知っておきましょう！

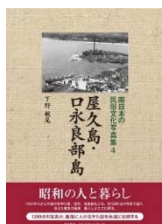
財団活動報告

10/14 アサヒビールと共にボランティア

アサヒビール株式会社様と屋久島レクリエーションの森保護管理協議会支援協定に基づくボランティア活動に財団職員及び財団ボランティア4名が参加し、ヤクスギランド内の木道や手摺りの苔落としなどを行いました。「雨の作業だったけどきれいになって気持ちは晴れました。来年も参加したいです」と言っていただきました。



図書の紹介 屋久島環境文化村センターで販売中
屋久島・口永良部島（南日本の民俗文化写真集4）



1960年代からの島の年中行事、信仰、衣食住などを、約1200点の写真で紹介しています。消えた集落の風景、暮らしがここに甦ります。また、発見直後の縄文杉や、大王杉、ウィルソン株など、悠久の屋久島を感じられる写真も多数掲載しています。

定価（販売価格）
3,500円（税込 3,780円）

屋久島を想う

事務局次長 木原 貴矢

「街を歩けば周囲の『もの』が話しかけてくる」という。オカルト話ではなく、西郷隆盛の銅像を見る時「明治維新の元勳で…」、桜島を望む時「活動を続けている火山で…」等々、頭に浮かぶことの例えで、自分の関心の目安となるのだそうだ。



屋久島に住んで半年が過ぎたが、話しかけてくる「もの」は、「木曜日は冷凍食品が安いです」「通学時間は小学生が横断するから注意して」等々、日々の生活に関わるものが専らである。

「もの」は関心を持って近づけば、饒舌に話をしてくれる。屋久島で関心があるものは少なくないのだけれど、縄文杉のような有名な「もの」は近づくのにそれなりの準備があるので、出不精な私はまだ話かけてもらえないでいる。住宅の窓から見える前岳の彼方にある「もの」に思いを寄せつつも、目の前にいるジョロウグモが「この巣は複雑で、維持が大変」と話しかけてくる現在である。

